

京都陶磁器釉薬セミナーの紹介

平成23年度の京都陶磁器釉薬セミナーは、昨年度までの「京都陶磁器釉薬研究会」の名称を今年度から「京都陶磁器釉薬セミナー」に改めて開催します。

当セミナーは、当センターと京都陶磁器協同組合連合会が共催し、事務局は当センターの基盤技術課(材料・機能評価)が担当しております。当セミナーは、前身の研究会を含めると平成9年に開始し、今年で15年目に入ります。開催回数延べ88回、参加者数は通算約2000名以上となり、この間使用した資料等は約1000点に及びます。

当セミナーは会員相互の勉強会的色彩を持ち、メインテーマは、「陶磁器における釉薬理論と実際」という内容であります。平成23年度は、技術センター5階研修室において、午後3時～4時30分まで、下記予定に掲載してある課題(サブテーマ)を順次実施していく予定にしております。参加をご希望の方は、基盤技術課(材料・機能評価担当矢野)までご連絡下さい。

平成23年度の京都陶磁器釉薬セミナーの開催予定

開催日時	課題・講師	副題および講義概要
(第1回) 平成23年 6月22日(水) 15:00~16:30	ライフスタイルと商品の提供 佐藤 敬二 先生 京都府中小企業特別技術指導員 京都精華大学デザイン学部教授	「陶工房製品のイメージパネル分析」 最近消費者を重視したライフ、スタイルマーケティングが盛んとなり、大量生産品から少量生産品まできめ細かなデザイン戦略が求められています。色絵の工房においても、一度工房の製品のイメージパネル分析をされたら如何でしょうか?従来のお得意様の世代替わりや、スーパーキュイジーヌなど新しい食のスタイルの変化によって、ひょっとしたらお客様の好みが変わってきているかもしれません。当日は自工房の様々な製品の写真を持ってきて頂けますと幸いです。
(第2回) 7月20日(水) 15:00~16:30	信楽焼と釉薬 中島 孝 先生 滋賀県工業技術総合センター・ 信楽窯業技術試験場専門員	「信楽の特徴ある釉薬や発生する欠点について」 先に信楽窯業技術試験場の業務を紹介し、試験場での研究や指導を通じて体得した釉薬としてのおもしろさやむずかしさが感じられる特徴ある釉薬を紹介し、併せて釉に発生する欠点について、テストピースの中から数点例を挙げながら試験方法などを紹介します(釉の貫入と素地、結晶釉の形と発色、青磁釉における焼成条件と発色などです)。
(第3回) 9月28日(水) 15:00~16:30	陶磁器釉の色調と焼成雰囲気 竹内 信行 先生 京都府中小企業特別技術指導員 京都工芸繊維大学大学院准教授	「加熱過程と冷却過程の雰囲気を種々に変化させて焼成した銅釉の色調と銅の化学状態」 陶磁器釉に含まれる銅の化学状態は焼成雰囲気によって大きく変化し、それに伴って銅釉の色調も様々に変化します。加熱過程と冷却過程の雰囲気を種々に変化させて焼成した銅釉の色調と釉中の銅の化学状態変化の関係を種々の測定データから明らかにし、焼成雰囲気が銅釉の色調に与える影響を解説します。
(第4回) 11月16日(水) 15:00~16:30	過冷却液体としてのガラスと釉薬 大田 陸夫 先生 京都府中小企業特別技術指導員 京都工芸繊維大学名誉教授	「ガラスと釉薬の組成と性質」 釉薬はガラスの1種です。本講では以下のような項目について解説します。①融液の冷却とガラス化領域または結晶化領域、②過冷却液体のガラス転移現象、③ガラスの結晶化と応用、④ガラスの分相と応用、⑤ガラス構造と性質(光学的、熱的、機械的、化学的、電気的)、⑥多成分系ガラスの性質とその計算原理。
(第5回) 平成24年 2月8日(水) 15:00~16:30	釉薬と環境 塩野 剛司 先生 京都府中小企業特別技術指導員 京都工芸繊維大学大学院准教授	「化学物質の管理と上絵具の耐酸性の向上および無鉛化」 化学物質の管理の強化は、ますます厳しくなり、陶磁器業界にも大きな影響を与えています。特に色鮮やかな上絵具を特徴とする京焼、有田焼、九谷焼などの高級和食器の産地では、重要な課題であり、上絵具の耐酸性の向上や無鉛化に向けた研究開発が積極的に行われてきました。本講演では、鉛問題を中心とした化学物質の規制の現状、釉薬などの絵具の発色機構および京都工芸繊維大学で行ってきた釉薬の研究について講義します。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
基盤技術課 材料・機能評価担当

TEL:075-315-8633 FAX:075-315-9497
E-mail:kiban@mtc.pref.kyoto.lg.jp